

未来への扉

～進路支援通信 vol.2～



2021年3月18日(木)

兵庫県立福崎高等学校 進路支援部

休校で始まった今年度もはや終わろうとしています。一年生は、この一年間で高校生としての学習習慣を身につけることが出来ましたか？二年生は、受験生としての心構えは出来ていますか？希望進路を実現するため、この時期に学習習慣を振り返り、新学期に向けての準備を進めましょう。

★学習習慣の振り返り

(昨年度入試の合格者のスタディサポートのGTZ Sランクの平均回答率の傾向より)

- 平日は2時間以上、休日は4時間以上(1年は3時間)の自主学習時間を確保している。2年生は春休み中は4時間以上を目標に自主学習時間を確保する。
- 学習開始時間を決めて、毎日規則正しく学習している。
- 優先順位を決めて、学習する。(課題は優先順位を付けて取り組む)
- 計画や目標を決めて学習する。(春休みの学習計画を立てていますか?)

(例:春休みの課題は、苦手な数学から取り組み、数学の課題は3月中に終わらせる。)

～大学入学共通テスト～

今年1月、73回生が初めて大学入学共通テストを受験しました。共通テストとはどのような試験なのでしょう？

大学入学共通テストは、国公立大学の一般入試(大学により推薦入試でもその点数を加味することもある)を受験するために、必ず受験すべきテストです。私立大学の入試でも共通テストの点数を加味する受験型があるので、国公立大学、私立大学受験者は基本受験する試験だと思ってください。

出題内容は、従来のセンター試験に比べて、思考力・判断力・表現力がより重視されたものとなっています。

出題形式は、複数の資料や題材、初見の資料、社会や日常生活に関連した題材など、多くの資料・題材が用いられ、思考力・判断力・表現力を発揮し

て取り組むかたちが増加しました。問題分量も増え、国語や日本史を除いて、多くの科目で問題のページ数が昨年よりも増加していました。

従来のセンター試験に比較して難しくなった印象を受けましたが、全体的な難易度は、「国語+数学Ⅰ・A+数学Ⅱ・B+英語」の平均点合計が350.09点(600点満点)となっており、昨年のセンター試験より14.15点アップしています。初めての共通テストは、内容・形式ともボリューム感がある出題でしたが、受験生にとって取り組みやすい題材、基礎知識があれば読み取れる資料、判断しやすい選択肢であったと考えられます。

共通テストは、内容・形式とも深い理解や高度な思考力・判断力を問うかたちになっており、来年の共通テストに向けて、2年生はしっかりと対策を、1年生は今のうちに基礎固めをしておく必要があります。

★今すべきこと～春休みの有効活用～。

3年生は、来年の入試までの長期休暇は、この春休みと夏休みだけです。つまり、この時期にしっかりとした意志を持って学習に取り組めるかどうか、一つの勝負の分かれ目になります。これまでと変わらない過ごし方では、受験生としての波に乗れないまま、無駄な時間を過ごしてしまうことになります。



行うべきこと1 国数英の苦手を克服する

進級前に、国数英の苦手を克服することが非常に重要です。苦手を残したままでは、理社の受験対策を進める時期が遅れてしまいます。貴重な長期休暇の春休みを活用し、「今まで受けた考査問題や模試の解き直し」や「スタディーサポートで課題となった苦手分野を重点的に対策する」ことが有効です。科目ごとに、「何を、どのレベルまであげるために、どうするのか」という具体的な目標をもち、学習しましょう。

行うべきこと2 志望校や志望学部系統を決める

1月記述模試や共通テスト模試・2月の結果を見ながら、具体的に志望校を絞り込んだり、志望校以外の大学にも目を向けて、学部系統の研究テーマを調べることが大事です。春休みを利用して、志望校のHPを確認したり、資料を取り寄せたりするなど、情報収集をしましょう。大学によってはオンラインでのオープンキャンパスを行っている場合もあるので、積極的に活用しましょう。

☆先輩からのメッセージ☆

卒業生を迎えて、進路先の様子や高校時代の勉強方法を後輩に伝えてもらう進路行事「卒業生を囲む会」を3月に行う予定でしたが、本年は実施できませんでした。そのかわりに、秋の教育実習で皆さんと2週間共に過ごした先輩（69回生）が文章を寄せて下さいました。

1. 自己紹介

私は現在、立命館大学産業社会学部4年生です。3年時は文Ⅱクラスで、高校3年間野球部に所属していました。今年4月からは教職大学院(教員養成の大学院)に進学し、教員を目指します。昨年、教育実習にいかせてもらったので、覚えている人もいるかもしれません。受験や進路選択に少しでも参考にさせていただければ嬉しいです。

2. 大学の紹介

①大学について・大学に行ってよかったこと

立命館大学は学生数がとても多いです。近畿圏以外の学生が半数以上を占め、留学生もいろんな国から大勢来ています。自分とは全く違う背景を持った人と過ごすこととなります。立命館大学は学部も沢山あるので、学生によって興味関心のあることもバラバラです。同じ大学生でも考え方、価値観、経験、どれも高校とは比べものにならないほど多様性にあふれています。そんな人たちとの出会いは刺激の連続です。自分にとって面白い人、一緒にいて楽しい人、生き方が破天荒な人などいろんな人に出会い、話し合ったり、一緒に行動することで4年間楽しく過ごすことができたと思います。

③大学と高校の違い

全て違うと言っていいくらい両者は違うのですが、学びの違いについて述べたいと思います。

高校は教育機関ですが大学は研究機関の役割が大きくなります。大学生の目的は「研究」です。「勉強」とは違います。「勉強」は問いと答えが与えられていて、問いから答えを導くことができるようになるためのものです。つまり、スタートとゴールが設定されている。高校まではこの「勉強」がメインです。一方、大学での「研究」は自分で問いを立て、自分なりの答えを生み出すためのものです。「研究」は分野、方法、参考資料など自分ですべて決めることができます。逆に言うとすべて自分で決めなければなりません。それは、高校のときにはなかったことなので、最初は戸惑いました。しかし、「研究」は取り組んでいくと、とてもおもしろいものです。「研究」では自分の興味関心に沿って自由に行動することができます。戸惑いながらも好きに学べるということが新鮮で、研究していた時間が大学生活で一番充実していたと思います。大学に進学する人は、ぜひ「研究」を楽しんでほしいと思います。

3. 高校時代の勉強法

私は面倒くさがりで、勉強に時間をかけたくなかったので、一番効率の良い勉強のやり方を考えました。やってみて一番よかったのは「授業をちゃんと聴く」でした。基本ですが、今一度この基本のことについて、私は強調したいと思います。教育実習の体験からいえることですが、先生方は生徒のみなさんができるだけわかりやすいように授業をつくりまします。つまり教科書の内容をかいつまんで、それをかみくだき、わかりやすくしたものが授業です。自分で教科書を読むより、授業を聴くほうが、効率的に理解できると思いませんか。それでも十分に理解できなければ先生に聞くか、今はインターネットでなんでも調べられますし、授業動画などもあるでしょうから、そちらを参考にすればいいと思います。こうして大まかな概要を理解してから、試験前の時期に、書いて答えられるように細かいところも覚えます。これが自分の勉強のやり方でした。

部活引退後の受験勉強もやり方は変わりませんでした。1・2年の授業は「生」ではもう聴けないので、授業動画で復習し、ある程度まで理解できたら用語集などで覚える方法に移りました。志望校の過去問をやる時期は、各教科で理解のスピードが違うのでバラバラでしたが、基本的に11月～12月ごろにしていたと思います（センター試験はもう少し早くから取り組んでいた気がします）。それぞれにあったやり方があると思います。みなさん自身で良いと思うやり方を探してほしいと思います。

4. 後輩へアドバイス

①勉強面でのアドバイス

受験生なので「大学選び」についてはよく考えると思います。しかし、4年間大学で学んできて思うのは「学部選び」も同じくらい大切だということです。大学は高校より長い期間、しかも高校より狭い範囲の分野を扱います。大学の研究では一つの分野を深く掘り下げるので、興味のない分野の学部に入ると4年間ずっと興味のない研究をすることになるので苦痛だと思います。だから「〇〇大学ならどこでもいい」と言わずに、大学HPなどでどんなことをしているのかを見て、学部まできちんと考えてほしいなと思います。

②勉強面以外でのアドバイス

受験生だからといって受験勉強しかするな、とはまったく思っていない。みなさんは高校最後の年を迎えます。大学でしかできないこともありますが高校でしかできないこともたくさんあります。部活、体育大会、福高祭、友達との時間、先生との会話、高校での恋愛など、この一年でもう最後です。受験勉強も大切ですが、高校での楽しい時間を過ごすこともとても大切だと思います。だからできるだけ後悔のないように楽しんで過ごしてください。